

本草藥

陪麥襄縣志

麴麥和府志

穀麥志會浮山編

莖高サ一二尺、圓ニシテ赤ク光リアリ、葉互生ス、形葵葉ニ似テ短薄光滑、秋莖稍ニ花アリ簇生ス、白色後實ヲ結ズ、三稜ニシテ皮黑、仁ハ白シ、本經逢原ニ、須北方者良南方者味苦性劣、不堪服食ト云、本邦ニテモ信州及江州桃井伊吹山ヲ上トス、

〔清良記七上〕五穀雜穀其外物作分號類之事

蕎麥之事

一大。蕎麥。是ヲ薄墨ト云也。一小粒。

此蕎麥に二品有無の論有、同じごとく蒔て、其實否を糺せり、されば六月蒔たるは大蕎麥と成て實多し、遅く蒔たるは小粒となりて、其種子末々迄小粒也、依之大小にして上下あるに定たり、

〔經濟要錄四百穀〕蕎麥ニモ梗。糯。二種アリ、且苦蕎麥ヲモ穀類ノ内ニ算ルナリ、

〔重修本草綱目啓蒙麻十七稻〕蕎麥○中

品類多シ、常品ハ三稜ナリ、カクソバハ四稜ナリ、大カタソバアリ、又コメソバハ稜ナク米粒ノ如シ、又信濃ソバ、尾タネソバ、コンソバ、ヒメソバ、ヲニソバ、大ソバ、小ソバノ品アリ、

〔二物考〕題言

按ズルニ、北極地方ノ國、寒威凜冽ニシテ、地ノ融スルコト、一歲ニシテ纔カニ一二月ノミ、然リト雖ドモ、其民ノ飢エザルハ何ゾヤ、是其風寒暑濕ニ畏憚セザル物ヲ植テ、以テ食トスレバナリ、余長英○高野常ニ其種子ヲ得ザルヲ以テ憾トナス、今茲ニ丙申○天保七年雨濕連綿、三月ヨリ八月ニ達ス、其間ノ霧日僅カニ數フ可シ、時氣ノ寒冷癸巳○天保四年ノ歲ニ過グ、各州水災多ク、米價漸ク貴ク、人心洶々トシテ安カラズ、今歲八月中浣、余上毛澤渡ナル福田宗禎ニ逢フ、宗禎世々瘍科ヲ業トス、